

# 校名：岡山大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒703-8281 岡山市中区東山二丁目9-20 電話番号：086-272-0260

記載日：平成28年5月20日 記載者：忠田温子 記載者役職：副園長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

《教育目標》「**自主自立** **豊かな心** **たくましく**」

～自分から 自分で 自分へ 人とともに 人のために～

### 自主自立

- ・ 基本的生活習慣を身につける
- ・ 主体的に取り組む
- ・ 自分で考えて行動する

### 豊かな心

- ・ 自己肯定感をもつ
- ・ 友達と共にくらしを創る
- ・ 思いやりの気持ちをもつ
- ・ 自然を愛し、感動する心をもつ

### たくましく

- ・ 自分の心を健康に保つ
- ・ しなやかな心をもつ

- ・ 幼児を保育し、幼児の心身の発達を助長することを目的とする。
- ・ 岡山大学教育学部附属学校園で共通の教育目標を掲げ、「考える力」を豊かに育み、様々な社会の変化に対応していくことができる子どもの育成をめざす。
- ・ 子どもの成長過程を捉えるために一貫教育カリキュラムを作成し幼稚園・小学校・中学校12年間を通して子どもの育ちを積み重ねていく。
- ・ 岡山大学教育学部との密接な連携のもとに、幼児教育の理論及び指導方法の実際に関する研究を行う。
- ・ 岡山大学教育学部学生を対象とした実習と研究の場を提供し、その指導にあたる。
- ・ 県下幼稚園の研修の場として、研究発表や保育を公開し、県下の幼児教育の向上に努める。



創立130周年記念陶板『雲海』  
作：第22代園長  
岡山大学教授 泉谷俊夫

## 貴校の卒業生の活躍状況について：

### ①追跡調査：

行っていない。

### ②把握状況：

継続的に把握しているところはない。

### ③活動状況の具体：昭和25年度～平成28年度までの卒業生総数1,353人

政治・経済・教育関係など多方面に渡って活躍している。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活動状況について

### ① 追跡調査：

行っていない。

### ② 把握状況：

継続的に把握しているところはない。

### ③ 活動状況の具体：

大学講師・教授、岡山っ子育成局指導主事、公立幼稚園園長・主任、認定こども園副園長など

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取組などについて：

### (1) 一人一人の確かな育ちを保障する保育

- 子どもの心を揺さぶる魅力ある環境を構成する。
- 子どもの挑戦意欲を育て、「考える力」を豊かに育む。
- 一人一人のよさを認め合える仲間づくりを大切にする。

「学びに向かう力（「好奇心・自発性・自制心・挑戦意欲・共同性）」を育てることにより、豊かに育つ「考える力」



友達と考えを出し合いながら  
～巨大迷路作り～



繰り返し試しながら  
～こま回し～



好奇心を育てる  
～大きなシャボン玉作り～

### (2) 子どもが伸びる幼小連携

#### ○「幼小接続期カリキュラム」の作成

発達段階によって、幼稚園入園から中学校卒業までの12年間で6つの時期に区分し、特に幼小接続期と小中接続期はそれぞれ1つの発達区分とし、幼・小、小・中の教諭が、共通の子ども像を基に各校園の保育や授業を構想していくことで、幼稚園から小学校、小学校から中学校の生活に円滑に移行していくことができるようになる。

#### ○幼小接続部会

附属幼稚園教諭と附属小学校低学年担任・研究主任から構成されている。就学前と就学後の評価を行いカリキュラムや指導方法の見直しを行ったり、望ましい幼小接続期の環境や教師の援助方法について探ったりする。

#### ○「一年生になったつもりプロジェクト」の実施

幼稚園児が挑戦意欲や自信を育むことができるような内容での「授業ごっこ」を小学校教諭が行い、小学生になることや勉強することに憧れの気持ちを強くもち、小学校への接続を円滑に行う。

#### 《「一年生になったつもりプロジェクト」から帰った子どもたちの様子》

国語と体育の二つのグループに分かれて小学校ごっこをした子どもたちは、幼稚園に戻ってから自分たちの体験について知らせ合う。

「黒板に星をかいたよ」「“げつ”と“つき”で同じ漢字を探した」「呼ばれるときに〇〇さんって（名字で）呼ばれた」等と興奮気味に話す。

教師「この前は一年生が授業をしているのを見たけど、今回はみんながしたよね。授業をしてどうだった？」と問いかけると、「小学校の人になったつもりだったから面白かった」「幼稚園でできないことが小学校でできたから嬉しかった」等の言葉が聞かれた。

また、背より高い跳び箱を跳んだことやチャイムがなったら先生が入ってきたこと等、幼稚園との違いについて、気付いたことを自分なりの言葉で友達に伝える姿も見られた。

「（4月になったら）本当の一年生！」と喜ぶ。「一年生になったらどんなことをしたい？」と問いかけると「算数の引き算！」「鍵盤ハーモニカ！」「理科で実験をしたい！」等という言葉が聞かれ、幼児の顔は期待と自信にあふれていた。



国語の勉強

～チョークで黒板に自由に書いてみよう～

### (3) 心の通う家庭・地域との連携

○子どもの伸びる力の素晴らしさを共に感じ、育ちを支える関係を作る。

**広報誌「あおぎり」発行** 昭和41年7月から発刊し年3回発行。現在第148号。

家庭では園児たちの遊びや活動の様子、園が家庭にどのような希望を持っているのかを知ることができ、園では家庭の側からの意見を知ることができる。内容は、基本的な生活習慣に関する特集記事や保護者の投稿～あおぎりのめ～子どもの成長を感じるとき～等。

**DADの会発足** 平成9年、当時の会長が呼びかけ発足

※「DAD」=DADY'S ASSOCIATION OF DELIGHTの略。“ゆかいなお父さんたちの会”

男性保護者も子どもたちや園とかかわりをもつとともに、父親の活躍する姿を見ることができ有意義な機会となっている。毎年5月にDAD総会を開催し、一学期の終わりには園庭整備作業、夏祭りの楽しい企画の計画運営をしている。

○地域がもつ豊富な自然や人材を活動に取り入れ、子どもたちの豊かな生活を創る。

- ・本物との出会いを大切に体験活動（たけのこ掘り、お月見会 等）
- ・豊かな自然体験（地域の山登り、親子での夏野菜栽培 等）



DADの会～園庭整備～



地域の方手作りのミニアスレチック



地域の人材を生かして  
～お月見会にて  
お茶会や琴演奏～

### (4) 岡山大学教育学部や他機関と連携した研究推進

本園の実践を様々な視点より検証し円滑に推進するために以下の研究組織を編成している。

**運営指導委員会**

岡山県教育庁義務教育課・岡山っ子育成局保育幼児教育課、岡山大学大学院教育学研究科  
岡山大学教育学部附属小学校、などの先生方と附属幼稚園教員より構成

**附属幼稚園幼児教育講座連携推進会議**

岡山大学大学院教育学研究科幼児教育講座の先生方と附属幼稚園教員より構成

地域において、現在どのような存在であると考えますか：

#### (1) 幼児期に育てたい力に焦点を当て、望ましい環境構成や教師の援助を探る研究推進の役割、

- ・「主体性」「生きる力」「考える力」等その時代の就学前教育に必要とされる課題を長期的視点で見通した実践に努める。
- ・公開保育や研究協議、講演会など研修の場を提供することにより、岡山県内外の幼児教育に携わる教師と共に研鑽を深める場を提供する。

#### (2) 三歳児教育・三年保育におけるモデル園としての役割

昭和45年度から三歳児教育を実施しており、保育参観や施設見学、研修会での講師など岡山市からだけでなく他市・他県からの依頼も多い。これまでの研究実績が施設設備・保育内容・保育時間などへ示唆を与えている。

#### (3) 就学前教育に携わる若い教師の研修会や岡山大学教育学部の教育実習の実施

- 岡山県の新規採用者を対象にした公開保育・協議及び講義（毎年1回）
- 教職実践ポートフォリオによる、反省的で創造的な教員の育成

○積み上げ方式による教育実習

- 1年次 学校教育教員養成課程（小学校教育・中学校教育・特別支援教育・幼児教育 約300名）※観察参加実習（一日の生活の流れ、子どもの発達段階を知る）  
→（2年次 県立支援学校での実習）
- 3年次 幼児教育コース（4週間 約15名）  
※観察実習「選んだ遊び」「組活動」・研究保育実習・主免実習
- 4年次 副免実習（二期に分かれて2週間ずつ・人数は履修人数により異なる）

○養護教諭養成課程養護実習

※岡山県内の国公立幼稚園での養護教諭の配置は本園のみであり、就学前の幼児の発達を知り実践的な実習を行う。3年次 養護教諭養成課程・特別別科養護教諭

○幼児教育コースの学生に対する教育実習基礎研究講義・各実習前のオリエンテーションの実施

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：**

日本の教育の進展のためには、絶え間ない教育研究が必要である。本質的な教育課題の解決のための研究を先進的・継続的に行う学校として附属学校が存在すると考える。

岡山大学附属学校園は、地域の教育課題の解決につながる教育研究を行ってきた。ここ何年間では、今日的課題である「幼小中の一貫教育の研究」と、特別支援教育の主要な課題である「主体的な社会参加をめざす研究」を行った。その際、「一貫教育合同委員会」を組織し、定期的に協議を重ね、教育学部と附属学校園が協動的に研究を進めていった。そして、各教科単位でのカンファレンスを重ねるなどし、教育学部教官の研究理論に基づいた指導助言等の支援が附属学校園の教育研究の充実を支えている。また、「岡山大学教育学部附属学校園地域運営委員会」を設置し、地域の教育課題とその解決について、教育委員会と意見交換や情報交換を行っている。更に、教育委員会及び公立学校との連携では、研修会の会場校として、また講師を派遣するなどして、附属学校園の役割を果たしている。

これらを進めるに当たり、一人一人を大切にする学級・学年・学校の雰囲気・風土を築くことを保育・授業づくりの基盤とする。ここでも、学部や附属学校園間の連携を図っている。「岡山大学教育学部附属学校園特別支援コーディネーターの会」は、こういった環境づくりの在り方について教職員の理解を深めるとともに、個々の子供に12年間のつながりのある支援を行うための附属学校園連携組織の一つである。この組織体制は地域の学校に対して学校園づくりのモデルとなると考える。

## 地域の教育課題の解決に寄与する教育研究

グローバル時代を生きる力[21世紀型能力]をはぐくむ教育研究

